

第3期中期事業計画
愛媛県支部(にぎたつ苑)

第3期中期事業計画【にぎたつ苑】

目次

I. 理念・使命・ビジョン.....	3
II. 医療及び福祉を取り巻く環境の急激な変化.....	4
III. 第2期中期事業計画の振り返り.....	5
IV. 第3期中期事業計画における重点項目.....	6
1 使命の追求 ～本会の存在意義～.....	6
(1) 生活困窮者支援の積極的推進.....	6
(2) 地域医療への貢献.....	7
(3) 総合的な医療・福祉サービスの提供.....	8
2 目指すべきビジョン.....	9
(1) ソーシャルインクルージョンの根付いた社会.....	9
(2) 支部未設置県の支部設立（復活）.....	10
3 使命の追求、ビジョンの実現を支える体制基盤の整備.....	11
(1) 強靱な経営基盤の構築.....	11
(2) 医療・福祉サービスの質の向上.....	12
① 済生会を担う人材の確保と育成.....	12
② 働きやすい環境づくり.....	13
③ スケールメリットの効果的な発揮.....	14
(3) 災害対策の推進.....	15
(4) 戦略的広報による済生会ブランドの発信.....	16
① 戦略的広報の確立.....	16
② 寄付金獲得に向けたコミュニケーションの強化.....	17
(5) デジタルトランスフォーメーション（DX）の推進.....	18
(6) グリーン社会の実現.....	19
(7) 研究の更なる活性化.....	20
(8) 国際連携の推進.....	21
(9) コンプライアンス及びガバナンスの徹底.....	22

I. 理念・使命・ビジョン

これまで、本会は経済的に医療を受けることが困難な困窮者に対して医薬を施すという「施薬救療」の精神のもと、生（いのち）を済（すく）う「済生」の活動を展開してきた。

昨今、急速なグローバル経済の進展、経済社会情勢の急激な変化、少子超高齢社会といった社会構造の変化、新型コロナウイルスの蔓延等により、単に経済的な問題に留まらず、住まい、就労、教育、社会的交流などの多様な領域において既存の社会保障制度や市場原理によるサービスだけでは対応しきれない狭間に生じた新たな問題が顕在化している。

ついては、今後とも、本会の理念である「施薬救療」の精神の下、「生活困窮者支援の積極的推進」、「地域医療への貢献」、「総合的な医療・福祉サービスの提供」という3本柱の使命を追及し、「ソーシャルインクルージョンに根付いた社会づくり」に参画する。

Ⅱ．医療及び福祉を取り巻く環境の急激な変化

昨今、急速なグローバル経済の進展、経済社会情勢の急激な変化、少子超高齢社会といった社会構造の変化、新型コロナウイルスの蔓延等により、単に経済的な問題に留まらず、住まい、就労、教育、社会的交流などの多様な領域において既存の社会保障制度や市場原理によるサービスだけでは対応しきれない狭間に生じた新たな問題が顕在化している。

また、感染症が常在化したウィズコロナ・ポストコロナの社会、経済・社会情勢の不透明化による受診抑制等の患者動向、人口減少による地域経済の縮小や労働力不足、急速に進展する技術革新の連鎖によるライフスタイルの変化、財政健全化に向けた診療報酬や介護報酬の抑制など医療・介護・福祉事業を取り巻く経営環境の変化が危惧される。

については、今までの延長線上にはない非線形な変化が訪れることを強い危機感と覚悟を持って認識する。

Ⅲ. 第2期中期事業計画の振り返り

新型コロナウイルス感染症の拡大が進む中、一部の事業は中止や縮小を余儀なくされたものの、「施薬救療」の精神の下、「生活困窮者支援の積極的推進」、「地域医療への貢献」、「総合的な医療・福祉サービスの提供」という3本柱の使命の遂行に努めてきた。

「生活困窮者支援の積極的推進」については、「生活困窮者援助の積極的推進」として現在と将来の不安への支援の実施、「総合的な質の高い福祉サービスの提供」としては利用者にとって望ましい生活サポートを実施、「地域医療への貢献」としては、連携パートナーとの協働と共働による安心感の提供を実施した。

その他、「経営基盤の強化」として経営の健全化、施設整備計画の推進、人材育成（誇りと自立心の向上）を実施し、新たな分野への挑戦への取り組みも実施した。

IV. 第3期中期事業計画における重点項目

1 使命の追求 ～本会の存在意義～

(1) 生活困窮者支援の積極的推進

現状の課題	社会保障制度が整った今日においても、病気や障害、加齢、不登校、就労先の倒産、貧困の連鎖など、誰もが自分ではどうにもならないことをきっかけに、社会から孤立・排除されてしまうこともある。 支援ニーズは経済的支援に留まらず多様化している。												
実施計画	無料低額老健利用事業を引き続き推進するとともに、なでしこプラン及び済生会ソーシャルインクルージョン推進を併せて充実させていく。 無料低額老健利用事業の率 <table border="1" data-bbox="450 840 1078 1137"> <thead> <tr> <th>年度</th><th>率</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和5年度</td><td>10.0%</td></tr> <tr> <td>令和6年度</td><td>10.0%</td></tr> <tr> <td>令和7年度</td><td>10.0%</td></tr> <tr> <td>令和8年度</td><td>10.0%</td></tr> <tr> <td>令和9年度</td><td>10.0%</td></tr> </tbody> </table>	年度	率	令和5年度	10.0%	令和6年度	10.0%	令和7年度	10.0%	令和8年度	10.0%	令和9年度	10.0%
年度	率												
令和5年度	10.0%												
令和6年度	10.0%												
令和7年度	10.0%												
令和8年度	10.0%												
令和9年度	10.0%												

1 使命の追求 ～本会の存在意義～

(2) 地域医療への貢献

現状の課題	地域医療とは以前はへき地の医師不足解消を指すことが多かったが、さらなる高齢化や過疎化が進む将来を見据え、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、医療・介護・予防・住まい・生活支援が包括的に確保される体制が求められている。
実施計画	今後発生するであろう病院の再編・統合の議論の流れの中、老健および在宅サービスとの切れ目のないスムーズな連携体制を強化する。

1 使命の追求 ～本会の存在意義～
 (3) 総合的な医療・福祉サービスの提供

現状の課題	経済・社会情勢の激変によって、既存の社会保障制度や市場原理によるサービスだけでは対応しきれない狭間に生じた新たな問題が顕在化している。														
実施計画	地域包括ケアを地域とともに展開する上で、住まい（ハートフル済生会）や就労（ワークステーションなでしこ）、教育（学校やNPOとの連携）など幅広いサービスの提供を充実させていく。 サービス区分数 <table border="1" data-bbox="451 958 1078 1305"> <thead> <tr> <th>年度</th><th>サービス区分数</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和4年度</td><td>10</td></tr> <tr> <td>令和5年度</td><td>10</td></tr> <tr> <td>令和6年度</td><td>10</td></tr> <tr> <td>令和7年度</td><td>10</td></tr> <tr> <td>令和8年度</td><td>10</td></tr> <tr> <td>令和9年度</td><td>10</td></tr> </tbody> </table>	年度	サービス区分数	令和4年度	10	令和5年度	10	令和6年度	10	令和7年度	10	令和8年度	10	令和9年度	10
年度	サービス区分数														
令和4年度	10														
令和5年度	10														
令和6年度	10														
令和7年度	10														
令和8年度	10														
令和9年度	10														

2 目指すべきビジョン

(1) ソーシャルインクルージョンの根付いた社会

現状の課題	近年、新型コロナウイルス感染症の蔓延が進み、国民生活には大きな変化がもたらされ、孤立や排除が著しく鮮明となり、感染症拡大の余波は今なお続いている状況の中、ソーシャルインクルージョンの根付いた社会の実現は切実により一層その必要性を求められる状況となっている。
実施計画	無料低額老健利用事業を引き続き推進する。併せてなでしこプラン及び済生会ソーシャルインクルージョン推進計画を充実させていく。 また、地域住民の日常や身近な場所から人と人のつながりを強固にし、その地域の経済も含めたまち全体を持続可能で誰もが安心して住み続けられるまちづくりに取り組む。

2 目指すべきビジョン
(2) 支部未設置県の支部設立（復活）

現状の課題	現在支部を設置していない県が7県（青森・秋田・山梨・岐阜・高知・徳島・沖縄）存在する。
実施計画	本部が実施する支部未設置県周辺の情報収集、事業化へ向けた取り組み等に協力する。

3 使命の追求、ビジョンの実現を支える体制基盤の整備

(1) 強靱な経営基盤の構築

現状の課題	今後、経済・社会情勢の不透明化による受診抑制等の患者動向、人口減少による地域経済の縮小や労働力不足、財政健全化に向けた診療報酬や介護報酬の抑制など医療・介護・福祉事業を取り巻く経営環境は、今までの延長線上にない厳しさにある中で、本会使命の追求、ソーシャルインクルージョンの根付いた社会というビジョンを実現していくためには、強靱な経営基盤を構築しなければならない。 本会の使命の追求、ビジョンの実現を支え持続可能なものとするための資金、更なる成長の源泉となる再投資資金を確保するため、地域のニーズの変化に応じた医療・介護・福祉事業の更なる展開による収益の確保、あらゆる費用の適正化を通じて、強靱な経営基盤を構築する。
実施計画	強靱な経営基盤を構築していくにあたっては、各支部、施設・事業所のリーダーが、リーダーシップを発揮し、全職員と経営情報等の共有を行いながら経営参画意識を醸成、マネジメント人材を育成していくとともに、更なる成長の源泉となる再投資の計画（地域ニーズや持続的発展を見据えた新築・増改築、設備投資計画及びその資金調達・返済計画）を、全職員が夢や将来に希望を持てるように立案していく。 そのために、委員会活動の充実と基準の取得、費用の適正化（予算）に努める。また、先見の提案への挑戦と失敗を経験として評価できる風土づくりを目指す。

3 使命の追求、ビジョンの実現を支える体制基盤の整備

(2) 医療・福祉サービスの質の向上

① 済生会を担う人材の確保と育成

現状の課題	患者・利用者の人権を尊重し、質の高い医療・福祉サービスを提供していくとともに、各支部、施設・事業所の経営基盤を強靱なものとしていくためには、優れた人材を採用し、着実に育成していくことが必要である。
実施計画	本会を担う優れた人材を確保していくため、本会創設の理念、果たすべき使命、目指すべきビジョンについて十分なコミュニケーションを取っていく。また、済生会の理念やビジョンを理解し、説明できる人材を増やす。

3 使命の追求、ビジョンの実現を支える体制基盤の整備

(2) 医療・福祉サービスの質の向上

② 働きやすい環境づくり

現状の課題	人口減少やライフスタイルの多様化等によって医療・福祉従事者の確保が困難な中、質の高い医療・福祉サービスを提供し続けるためには、医療・福祉従事者が健康で安心して働ける環境づくりが喫緊の課題である。 また、職員の育児、治療、介護等のライフスタイルや価値観、キャリア形成支援などダイバーシティ（多様性）を尊重した環境づくりが必要である。
実施計画	各種労働関係法の順守、ダイバーシティを尊重した働きやすい環境づくりを推進していくことで、医療・福祉サービスの質向上を図っていく。 ワークライフバランスの充実を目指し、休暇が取れやすい風土づくりやキャリアアップ、人材確保のための学校連携やロボット導入など積極的に推進する。また、健康や安全運転への支援も充実させる。

3 使命の追求、ビジョンの実現を支える体制基盤の整備

(2) 医療・福祉サービスの質の向上

③ スケールメリットの効果的な発揮

現状の課題	済生会は全国に 40 支部、800 を超える施設・事業を擁する日本最大の社会福祉法人であり、災害時や新興感染症発生時の人材派遣・物資供給、医療・福祉間の人材交流、共同購入、共同治験、済生会総研との共同研究、財務情報をはじめとする各種経営情報の活用、DPC 及びレセプトデータや医療・福祉の質に関するデータの活用などについてスケールメリットの恩恵が大きいはずだが、生かし切れていないきらいがある。。
実施計画	スケールメリットを効果的なものとして発揮していくためには、支部・施設を超えた診療科・職種等の横断的なつながりが必要である。各専門領域やテーマごとに、施設・職種の垣根を超えた横断的な組織を形成し、一体感の醸成を図りながら、共同研究、合同研修、共同治験、共同購入、災害対策等に取り組み、本会の医療・福祉サービスの質向上を図る。 合同研修など共同活動を推進する。

3 使命の追求、ビジョンの実現を支える体制基盤の整備

(3) 災害対策の推進

現状の課題	近年の大規模災害の発生状況をみると、平成 30 年北海道胆振東部地震及びその影響による日本初のブラックアウト（全域停電）、平成 30 年 7 月豪雨（西日本豪雨災害）をはじめとして、毎年のように梅雨前線の活発化や線状降水帯、大型の台風による集中豪雨が発生し、各地で河川の氾濫や土砂災害が頻発している。さらに、首都直下地震や南海トラフ地震等の大規模・広域災害は、近い将来発生する確率が高いとされており、その備えが急務となっている。
実施計画	大規模災害に対応すべく、全病院・施設にて BCP（事業継続計画）マニュアルを整備する。 （現在 BCP 無し。R9 年度までに策定する。） また、本部の推進する災害救援活動体制や被災地へ派遣する救護班・DCAT、大規模災害や広域災害を想定した研修・訓練に参加する。 DCAT 要員の充実や BCP マニュアルの活用を目指す。

3 使命の追求、ビジョンの実現を支える体制基盤の整備

(4) 戦略的広報による済生会ブランドの発信

① 戦略的広報の確立

現状の課題	これまでの施設情報や取り組みの発信活動や、済生会フェア等のイベント開催により済生会ブランドの認知度は着実に高まりつつある。 ただし、医療機関においては、法令の規制により広告・宣伝を行うことが制限されているため、本会の福祉施設も含めて広告・宣伝を十分に行っていないのが現状である。																					
実施計画	引き続き戦略的広報の観点も踏まえて、済生会フェア等の地域交流イベントの開催、各種メディアによる情報発信を通じて、地域住民・地元企業・地元マスコミ等と良好な関係を築くとともに、本会のブランド作りを行っていく。 また、本部が実施する施設経営幹部を対象にした研修に参加する。 プロジェクト化事業については広報視点で取り組み、対応能力（済生記者）も充実させる。 広報担当者の人数 <table><tr><th>年度</th><th>広報担当者の人数</th><th>うち済生記者の人数</th></tr><tr><td>令和4年度</td><td>10</td><td>2</td></tr><tr><td>令和5年度</td><td>10</td><td>2</td></tr><tr><td>令和6年度</td><td>10</td><td>3</td></tr><tr><td>令和7年度</td><td>10</td><td>3</td></tr><tr><td>令和8年度</td><td>10</td><td>4</td></tr><tr><td>令和9年度</td><td>10</td><td>4</td></tr></table>	年度	広報担当者の人数	うち済生記者の人数	令和4年度	10	2	令和5年度	10	2	令和6年度	10	3	令和7年度	10	3	令和8年度	10	4	令和9年度	10	4
年度	広報担当者の人数	うち済生記者の人数																				
令和4年度	10	2																				
令和5年度	10	2																				
令和6年度	10	3																				
令和7年度	10	3																				
令和8年度	10	4																				
令和9年度	10	4																				

3 使命の追求、ビジョンの実現を支える体制基盤の整備

(4) 戦略的広報による済生会ブランドの発信

② 寄付金獲得に向けたコミュニケーションの強化

現状の課題	本会の使命の追求やビジョンの実現に向けた事業の持続可能性、また、支部未設置県に支部を設置（復活）し、事業を新たに展開していくためには、本会自体の経営基盤を強靱にしていくことに加え、更なる財政基盤の拡充が必須となる。
実施計画	クラウドファンディングや各種メディア等を通じて、本会の理念・使命・ビジョンについてコミュニケーションを図り、本会と本会の支援者（寄付者など）が力を合わせ、社会的な課題の解決にあたっていく。 寄付金についての広報活動の充実を目指す。

3 使命の追求、ビジョンの実現を支える体制基盤の整備

(5) デジタルトランスフォーメーション (DX) の推進

現状の課題	医療・福祉分野の特性として、対面・接触などデジタルとは対極にある非定型的な業務が多く、センシティブな個人情報や規格の統一等の課題があるため、デジタル化自体が進まない状況にある。 また、医療機関へのハッキングなど新たに対応しなければならない課題も発生しており、サイバーセキュリティの仕組みづくりや利用する個人のITリテラシーを高めていく必要がある。
実施計画	短期的な取り組みとして、医療・福祉の質、患者・利用者サービスの向上、業務の効率化と生産性向上、医療・福祉情報データの収集及び利活用、国の政策への対応を、中長期的な取り組みとして、システム集約化、ネットワークセキュリティ、インフラ整備等を費用対効果を勘案し進めていく。 介護データベース（LIFE）への参画と活用を実践する。 オンラインの積極的活用やデジタル化の検討を推進する。 また新しいニーズ獲得のためアンケートを実践する。

3 使命の追求、ビジョンの実現を支える体制基盤の整備

(6) グリーン社会の実現

現状の課題	現在、気候変動対策に社会全体での取り組みが求められていることから、本会は、法人全体で温室効果ガスの削減や循環型社会の構築に積極的に取り組む必要があり、そのためにはまず、役職員の意識改革が必要である。
実施計画	これまで取り組んできた節電対策や節水等を引き続き徹底して行う他、再生紙の使用、ペーパーレス、食品ロス削減等を費用対効果を勘案し進めていく。 また、老朽化による空調更新計画を進めるとともに物品のリサイクルや共同利用など推進する。

3 使命の追求、ビジョンの実現を支える体制基盤の整備

(7) 研究の更なる活性化

現状の課題	新型コロナウイルスの流行のため学会や研究会が中止となることがある。また、面会しての会合も忌避される状況で、研究発表や職員間の連携の機会が少なくなっている。
実施計画	web 会議の導入など本会職員が研究や情報交換をしやすい環境を整備するとともに、引き続き本会の理念を支え使命の追求及びビジョンの実現を確かなものとしていくための研究をより一層活性化させる。 VR など活用し、先駆的な取り組みと介護サービスの融合を目指す。

3 使命の追求、ビジョンの実現を支える体制基盤の整備

(8) 国際連携の推進

現状の課題	外国人が施設を利用する場合には、言葉や文化の違いなどで戸惑うことがある。
実施計画	日本人と言葉や文化が異なる外国人が施設を利用する場合でも齟齬なく意思疎通できるよう丁寧な対応を心掛ける。 そのために実習含め外国人との交流を充実させる。

3 使命の追求、ビジョンの実現を支える体制基盤の整備

(9) コンプライアンス及びガバナンスの徹底

現状の課題	近年、企業・団体には、人権の視点、ESG 投資、社会的責任等の要請が よいよ高まっており、110 年の歴史と伝統を受け継ぐ済生会人一人ひとり は、引き続きより高度な社会的責任を果たしていかなければならない。
実施計画	改正社会福祉法、各種関連法規の改正及び動向等を踏まえて、確実にコン プライアンス及びガバナンス体制を整備する。 社会の変化が察知できるよう SWOT を行い、新制度への対応を迅速に行う。 また、監査体制の強化を図る。